

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 News【第1号】

平成 21 年 2 月 5 日、平成 20 年度「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」を開催しました。

平成 20 年度 幾春別川ふるさとの川づくり懇談会を、以下のとおり開催しました。

日時：平成 21 年 2 月 5 日（木）14：00～16：00
場所：岩見沢河川事務所 1F 会議室

当日は代理出席を含め委員 15 名が参加しました。懇談会では幾春別川での川づくりに向け、今までの取り組みについて、現地見学会の実施や北海道教育大学岩見沢キャンパスと連携し、有効活用ワーキングで距離標の製作などを実施したことを報告しました。また、幾春別川を軸とした散策路を整備し、それぞれのエリアで散策コースを設定し上流から下流までの各エリアを結んだネットワークを形成し、まちの活性化にもつなげていきたいなど、これまでの提案された川づくりの取り組みについて報告がされました。さらに、今後の川づくりについて、早期に実施可能なものや施設の改善が必要なものなど、これまでの意見を整理し、さらなる意見交換を行いました。

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 の主な発言から

懇談会の主な発言をご紹介します。

施設等の整備に関するもの

- ・幾春別川上流の水辺の楽校にアクセスしやすいようにして欲しい。今後は子供達の水生生物調査などを実施したい。
- ・水辺の楽校辺りは川の流れが緩やかなのでカヌー等の利用はしづらく、上流の方が魅力的である。また、トイレや駐車場の整備が出来ないか。
- ・河川沿いにダム工事での事故対応として水防倉庫的なものを設置し休憩施設、カヌー艇庫として利用は出来ないか。
- ・市来知頭首工に魚道を設置中であり、上流の「魚染めの滝」もサケが上れるような整備はできないか。

施設等の有効利用等に関するもの

- ・消流雪施設公園は大変素晴らしいのに使わ

れていない。もっと市民等に PR すべき。

- ・河川防災ステーションの有効活用を考えるべきである。広い駐車場や水防センターなど自由に使用できるようにして、市民活動の場となれば良いと考える

| 幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 委員 | | |
|-----------------------|-------------------|----------|
| 氏 名 | 所 | 属 |
| 石黒 武美 | NPO 山のない北村の輝き | 理事長 |
| 上野 英一 | (社)岩見沢青年会議所 | 理事長 |
| 金子 満 | 三笠市 経済建設部 | 建設管理課長 |
| 榊原 郁子 | 北海道教育大学岩見沢校 | 名誉教授 |
| 嵯峨 義輝 | 幾春別川をよくする市民の会 | 会長 |
| 高篠 和憲 | NPO 三笠森林遊学舎 | 理事長 |
| 奈良 健二 | 空知管内商工会連合会 | 会長 |
| 深田 倫男 | 岩見沢市教育委員会 | 教育部長 |
| 宝沢 康晴 | FM はまなす JAPAN 放送局 | 部長 |
| 眞野 弘 | 北海土地改良区 | 理事長 |
| 八木 昌黄 | 岩見沢市 建設部 | 公園緑地環境課長 |
| 八木 盛繁 | 札幌土木現業所 | 岩見沢出張所長 |
| 石神 孝之 | 幾春別川ダム建設事業所 | 所長 |
| 前田 富男 | 桂沢ダム管理所 | 所長 |
| 山越 明博 | 岩見沢河川事務所 | 所長 |

- ・北村河川防災ステーションなどは市民活動の場として等大いに活用すべき。

情報提供、ソフト対策に関するもの

- ・サケの放流活動などが実施されており、サケをキーワードに上流～下流のネットワーク形成ができないか。
- ・河川管理者が所有している膨大なデータの蓄積を有効利用させるべきである。また、せっかく素晴らしい事を実施していても、わかりやすい説明がなされていないので一般の方々にうまく伝わらない。また PR 不足であり、積極的に説明することを実施すべき。
- ・ホームページについては、わかりやすく使いやすいものにするため、市民の声をよく聴くべき。
- ・よく自転車を利用するが、堤防の天端が舗装されており非常に便利に使わせてもらっている。自転車は誰でも使える移動手段のツールなので、堤防上の舗装状況などについて積極的に情報発信すべき。
- ・ダムのような役割や仕組みについて一般の方々に認知されていない。河川管理者としては、もっと「わかりやすい」説明責任を果たすべき。
- ・情報交換するためにも情報提供ツールは必要であり、地域住民との交流などを伝える役目を果たしていた「幾春別川ニュース」を継続させる方策はないのか。

環境への配慮・保全に関するもの

- ・「NPO 法人山のない北村の輝き」では環境活動の一環として炭焼き活動をしており、できた炭は農業排水路などに入れて水質浄化として活用している。
- ・旧美唄川と石狩川の合流点のデルタ地帯はとて素晴らしい環境が残されている所で、昔ここで子供達とキャンプなどしたことがあり、今後も活用してほしい。
- ・当時多く繁茂していた、湿地性の貴重種の

植物など素晴らしい環境を保存して欲しい。

- ・川は子供達の学びの場として素晴らしいものを持っている。ただし、自然が残っているところで楽しむことが子供達には感動となる。人々の安全安心を保ちつつも極力自然を残した河川整備の実施を望みたい。

その他

- ・幾春別川はもともとはあまりいい川とはいえなかった。河川整備がいろいろなされて今のようないい川となったのでありがたく思っている。
- ・利水者としての立場で幾春別川からはたいへん恩恵を受けている。現在市来知頭首工に魚道設置工事がなされ魚の遡上に配慮した取り組みがされているなど、近年は農業従事者も自然環境に十分配慮していかなければならないという意識は強く持っている。
- ・アメリカ新大統領のオバマ氏がかかげる「グリーンニューディール政策」にあやかり、これからは「環境」に配慮した農業、土木事業、公共事業を推進すべき。
- ・無理に川に近づく為の場所を整備する必要はないと思う。
- ・緑中学校が河川清掃活動などを実施しておりこの度「小さな親切運動」で表彰された。

ご意見やお問い合わせは、下記事務局
札幌開発建設部 岩見沢河川事務所
〒068-0007 岩見沢市 7 条 9 丁目
TEL 0126 (23) 9555
FAX 0126 (25) 1697
まで、お気軽にお寄せください。